



南町小だより

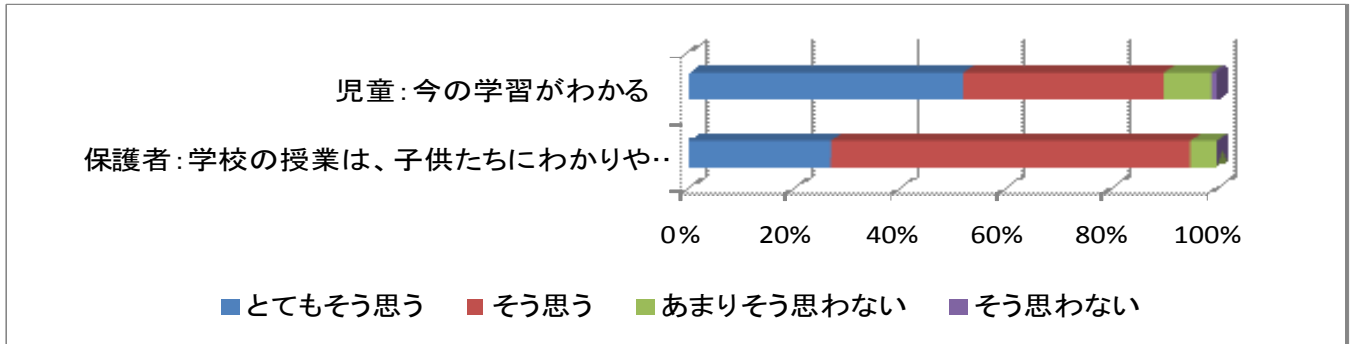
つよく かしく あたたかく

平成31年 2月28日

校長 福田 俊彦

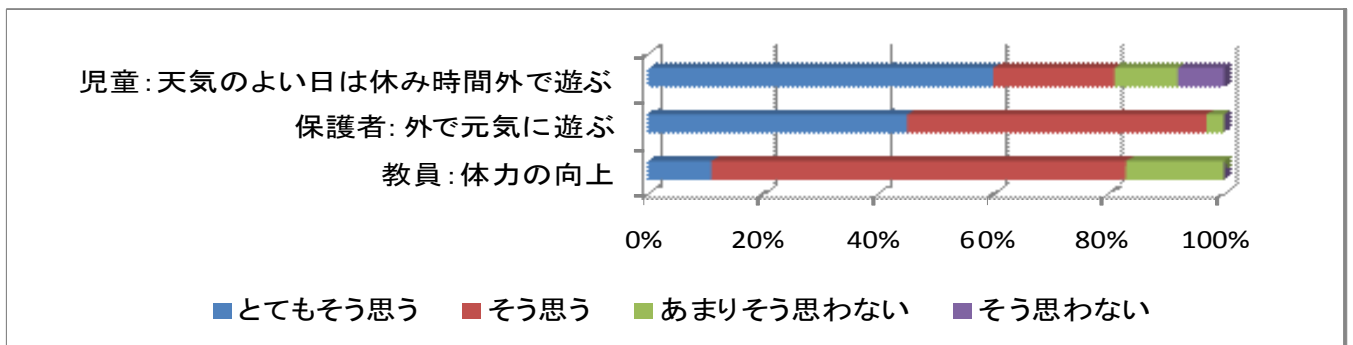
平成30年度 学校評価のまとめ

<学習について>



保護者アンケートの「子供たちにわかりやすい授業となっていますか」という問いに「とてもそう思う・そう思う」と答えた割合が昨年度より2ポイント上がり97%、児童の「授業がわかる」という問いに「とてもそう思う・そう思う」と答えた割合が昨年と同様の90%という結果となりました。また、児童の学習意欲を問う設問では、92%の保護者が肯定的に捉えています。学校では、平成32年度より全面実施となる新学習指導要領を基に今年度は、これまでの「ねらいを明確にもち児童に示す授業」「1単位時間の展開がわかる板書とノート指導」「児童が戸惑わない発問の工夫」「振り返りをポイントとした授業」の他に、児童が主体的に学習活動に取り組む場、対話的な学習の場を意図的、計画的に設け、深い学びへと導く指導を重点として授業改善を進めてきました。その結果が児童の学習意欲の高まりに表れていると思われまます。今後も児童にとって「わかる」「できる」授業を目指し、主体的な学び、対話的な学び、そして深い学びへと繋がるように授業改善を進めて参ります。

<体力の向上>



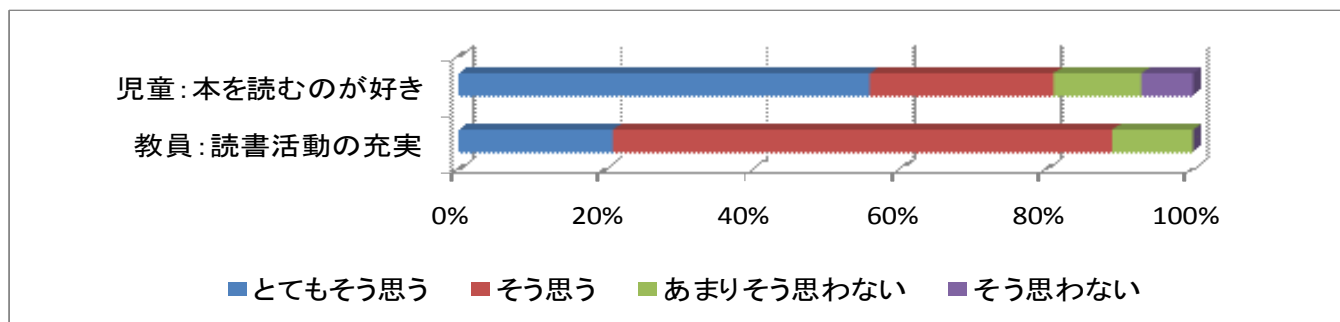
「外で元気に遊ぶ」という質問に「とてもそう思う・そう思う」と答えた保護者は昨年度より1ポイント上がり97%、児童の「天気の良い日は休み時間外で遊ぶ」は3ポイント上がり81%、教員の体力向上の意識は4ポイント上がり83%となりました。体育の授業を工夫するだけでなく、クラス遊びを取り入れたり、「持久走カード」「なわとびカード」を活用したりして、全校で休み時間に運動する時間を多くしてきたことによるものと思われまます。

しかし、体力テストの結果を見ると柔軟性や走力に課題が見られます。授業で、準備運動や体ほぐしの運動を工夫したり、走る運動を多くしたりしていくと共に、「なわとび週間」や「持久走週間」等全校で運動する活動をさらに充実させることで体力向上に努めて参ります。

また、今年度も学期に1回足育（あしく）週間を設け、校長講話や校内掲示物等で児童の意識を高めまました。さらに、1年生では足形をとって自分の足について考えたり、2年生では足育授業で正しい靴の履き方や足指体操を学んだりするなど、足元から自己の健康について見直す活動にも取り組んできました。来年度はさらに活動を広げ、第二の心臓とも言わ

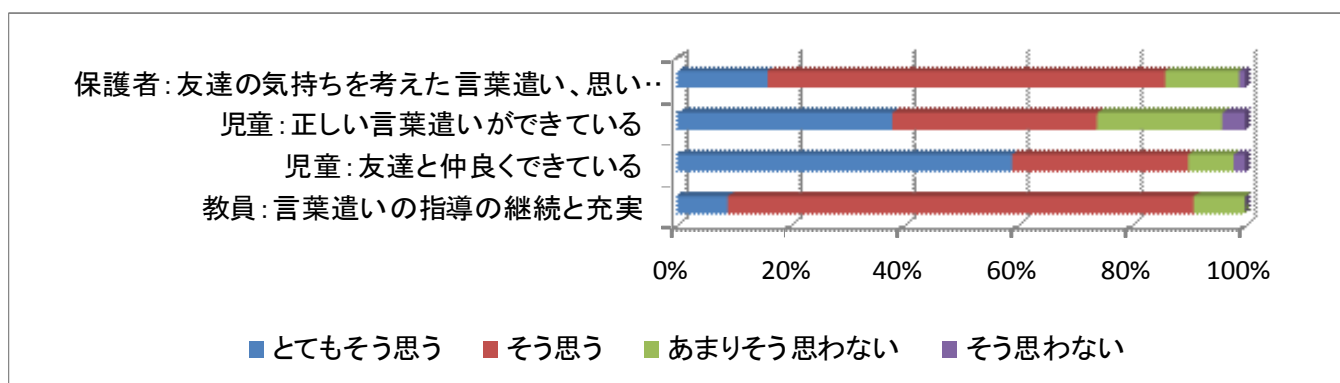
れる足から自分の体に気付き、健康な生き方について考える力を育てていきたいと考えます。体力作りのためには睡眠や栄養が欠かせないことは、言うまでもありません。「早起き・早寝・朝ご飯」の習慣作りにご家庭でも取り組んでほしいと思います。

<読書活動>



「本を読むのが好き」との質問に「とてもそう思う・そう思う」と答えた児童は昨年より2ポイント上がって81%、教員の読書活動への取組の意識は肯定的な意見が11ポイント下がって89%という結果となりました。今年度も朝読書を週2回実施し、2週間の読書旬間に合わせて実施した「お話し会」（低学年）や「本の探検ラリー」（中学年）、「ブックトーク」（高学年）も児童に定着し、好評でした。また、児童が本に親しめるように学校図書館管理員や学校図書館開放指導員の方々が図書館環境整備を行ってくださいました。これらのことが児童の読書に対する興味・関心を高めたものと思われます。また、今年度は図書委員会の児童による全校児童対象の読み聞かせ会も実施しました。一方、新たな取組が少なかったことが教員の意識の低下につながったのではないかと考えます。今後は図書委員会の活動をさらに充実させていくと共に新たな取組も工夫して計画し、読書活動の充実さにさらに力を入れていきたいと思ひます。

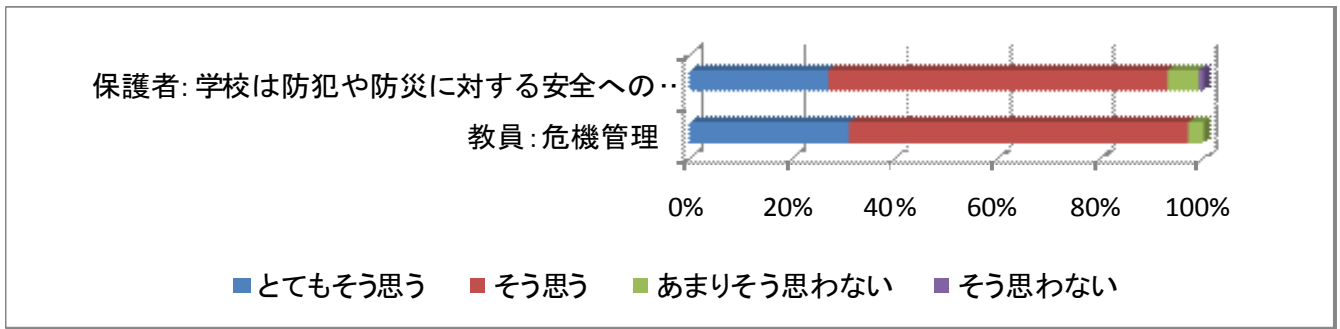
<豊かな心の育成(挨拶・言葉遣い)>



保護者アンケートで「友達の気持ちを考えた言葉遣い、思いやり等ができる」の質問に「とてもそう思う・そう思う」の回答が昨年より4ポイント上がり86%、児童へのアンケートで「正しい言葉遣いができている」の質問に「とてもそう思う・そう思う」の回答が7ポイント下がり74%、教員へのアンケートで「言葉遣いの指導の継続と充実」に対して「とてもそう思う・そう思う」の回答が7ポイント上がり91%という結果となりました。児童の結果が8割を切ったことは、個人差があることが一つの要因と考えられますが、今後の課題として真摯に受け止め、教師が範を示すと共に「挨拶」の取組を工夫していきます。しかしながら、挨拶について、安心安全ボランティアの方から「いつ来ても子供たちがあいさつをしてくれて、気持ちがよいです。」「廊下に並んでいた子供たちとすれ違った時、ほぼ全員が挨拶をしてくれました。」との声も寄せられています。学校公開時に保護者の方が校門で挨拶をしてくださったことは大きな力となっていることを実感します。

言葉遣いについては、「言葉の暴力は人の心を傷つけることもあるので、今の子供たちの言葉遣いを少しでも変えられたらよいと思ひます。」との意見もいただきました。言葉遣いについては、学校だけでは十分に改善できません。日頃の大人の言葉遣いも子供に影響します。保護者の皆様と連携して、取り組んでいきたいと思ひます。

<防犯・防災>

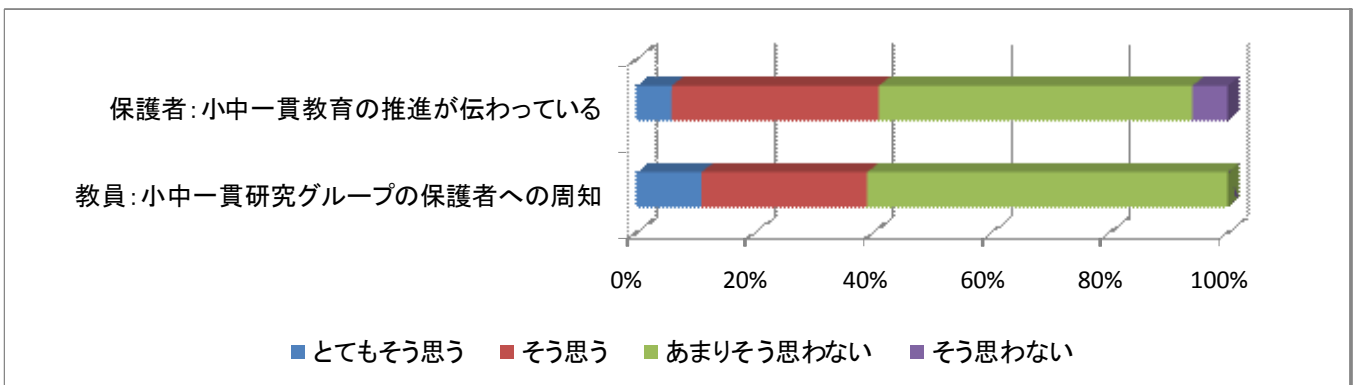


防犯・防災に対しての質問に対して、肯定的に答えた割合は、保護者が昨年より3ポイント上がり93%、教員が2ポイント上がり97%と高い結果となりました。

防犯については、不審者を学校の敷地に入れないことを第一に考え、「通ったら門を閉める」「東と西の昇降口の扉を閉める」「校内で会った方に声をかける」等を徹底して行ってきました。その結果、低学年児童も自ら進んで門を締める姿が見られるようになりました。また、保護者の方々にご協力いただいている安全安心ボランティアの活動も登録人数が増え、活動の幅が広がったことは、うれしい限りです。さらにPTAの防犯パトロールも時間帯を変えるなど工夫して行っていただき、感謝いたします。今後も保護者、地域の方々にご協力いただきながら、防犯対策を進めていきたいと思っております。

防災については、今年度も朝の時間や休み時間など時間帯を変えたり、校外の開進第二中学校へ避難したりするなど様々な場面を想定した避難訓練を実施しました。緊急地震速報が鳴ると児童は素早く机の下に入り、自分の身を守る行動ができています。今後は、避難訓練の内容をさらに工夫したり、安全指導を積み重ねたりして、どんな状況下においても「自分の命は自分で守る」行動が正しくできるように努めて参ります。

<小中一貫教育の推進>



保護者対象のアンケートで「小中一貫教育の学校の取組がわかりやすく伝わっていますか」という問いに対し、「とてもそう思う・そう思う」と答えた割合は昨年に比べて9ポイント上がり41%、一方、小中一貫教育を進めている教員は、保護者への周知が十分という回答が昨年より22ポイント下がり39%という低い結果となりました。保護者への周知に力を入れていく必要があることを強く感じます。

南町小学校は、向山小学校と共に開進第二中学校グループとして9年間を見通した児童生徒の育成に向け、「人権教育カリキュラムの作成・実施」、「家庭学習の充実」、「児童生徒交流」の3点を中心に連携を進めています。具体的には、家庭学習の習慣化を目指して、年2回児童・生徒を対象に家庭学習に関するアンケート調査を実施し、その結果を受け、学年に応じて目安を示し児童が進んで取り組めるように指導しています。また、6年対象に部活動体験も行っています。さらに、一昨年度中学校の「思いやり宣言」をもとに代表委員会で話し合い、「南町小思いやり宣言」を作り、全校に周知しました。現在は、各教室に中学校と小学校の2つの思いやり宣言を掲示して、行動目標として意識させると共に、挨拶運動などの取組を行っています。今年度、校内の掲示板に「小中一貫教育コーナー」を作りましたので、今後、実践した内容について、積極的にお知らせしていきたいと考えています。

★学校評議員の方から★

保護者や児童、教員が行った学校評価の結果について、学校評議員会を開き、ご意見をいただきました。

○学習について…

「ねらいを提示して、振り返りを行う授業の流れはよいと思う。」「高校受験では、作文、グループミーティング、面接がある。対話的な学習の場を設定することは、グループミーティングに活かされると思う。また、作文については、自分には書けないと最初からあきらめてしまう傾向があるので、書き方の指導があるとよい。」との意見がありました。今後も新学習指導要領のねらいにある、いまだかつてなかったような急速かつ激しい変化が進行する社会を、一人一人の人間が主体的・創造的に生き抜いていくために必要な「主体的・対話的で深い学び」を定着させるため、授業改善に力を入れていきます。

○学校生活について…

「クラス遊びを励行していることはよい。子供たちは、いろいろな遊びを知っているので、子供たち自ら遊びを広げられるようになってほしい。」との意見がありました。ふれあい班遊びやクラス遊び等を充実させ、遊びの幅を広げると共に子供同士の温かな人間関係作りを力を入れていきます。

○体力について…

「体力テストで柔軟性が課題とあったが、けがを予防する意味でも柔軟性を高める運動に引き続き取り組んでほしい。」「柔軟性を高めるには、日々継続して取り組むことが大切である。」「中学校で急に運動部に入るとついていけない。小学校から運動に慣れ親しんでおくとよい。」「足育に取り組んでいることはよい。家庭でも、足指ジャンケンなどに取り組むとよいのではないか。」との意見がありました。児童に柔軟性を高めることの大切さを指導していくと共に授業で柔軟性を高める運動に継続して取り組んだり、家庭で取り組むように促したりするなど児童が自ら進んで柔軟性を高める運動に取り組む態度を育てていきたいと思います。また、足育については、各学年での取組を増やしていくことで充実を図っていきます。

○読書活動について…

「小学校で読書に興味をもったので、中学生になっても進んで本を読んでいます。」との意見がありました。読書好きの児童がさらに増えるよう今後も読書活動の工夫と読書環境の充実を力を入れていきます。

○挨拶について…

『第二土曜日に校門に立っていると子供たちの挨拶の仕方に個人差があるのを実感する。校門に立っている父親の人数が少ない時には、子供たちから「今日は少ないね。」と声をかけられるので、第二土曜日に父親が校門で挨拶をすることは、子供たちに定着してきた。』『挨拶は、1年生からの継続した取組が大切である。』という意見をいただきました。挨拶については、週の生活目標に取り上げたり、教師から進んであいさつをしたりするなど重点として取り組んできましたが、校門ではしっかり挨拶ができて、廊下ですれ違った時にはまだ十分にできないという課題もあります。保護者の皆様と連携して「いつでも元気なあいさつができる児童」の育成に力を入れていきます。

○豊かな心の育成について…

『「南町小思いやり宣言」の取組は、心の教育としてよい。大人を見て子供は成長していくので、親子共に歩んでいける取組があるとよい。また、キャリア教育も進めていけるとよいと思う。』との意見がありました。新学習指導要領では、特別活動を要として、学校の教育活動全体を通してキャリア教育の充実を図ることが示されました。キャリア教育を充実させることにより、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度を育てていきます。

○防災について…

「開進第二中学校では、中学1年生が防災訓練を行っている。今年で4年目になるので全生徒が経験したことになる。他の中学校でも同様の訓練を行うようになった。実際に体験することが大切である。」「学校で訓練をするのは難しいと思うが、登下校中に災害があった時にも正しい避難行動がとれる力を育てたい。」との意見がありました。いかなる状況下でも「自分の命は自分で守る」行動がとれる力を児童に付けることができるようにするために日常の安全指導の充実と避難訓練の工夫に取り組んでいきます。

○その他…

「展覧会に多くの保護者が来校し、また保護者アンケートの回収率が上がったとの報告もあり、学校に協力的な保護者が多いと感じる。』『「早起き・早寝・朝ご飯」や言葉遣いは家庭と連携していかなければならない課題である。』『「青少年委員も、防災についての指導をし、家庭で話し合うように声をかけている。」との意見もいただきました。今後も家庭・地域との連携をさらに深め、ひとつひとつ課題改善に向けて全力で取り組んでいきます。

また、「ホームページは更新がないと見なくなってしまう。1日1回は更新できるとよい。」との意見もいただきました。ホームページの更新も次年度の課題として努力します。